

厚生労働科学研究費補助金（免疫・アレルギー疾患政策研究事業）
総括研究報告書

金属アレルギーの新規管理法の確立に関する研究

研究代表者 矢上 晶子 藤田医科大学 医学部 総合アレルギー科 教授

研究要旨

金属アレルギーに苦慮する国民が潜在的に多いことが推測される。また、金属アレルギーは皮膚科、歯科、整形外科、循環器内科、脳神経外科間で連携した診療（診断や生活指導）が必要な疾患である。一方、金属アレルギー診療の問題点として、患者が受診しても各診療科で適切な対応がなされず漫然と観察されている状況がある。その要因として、最も有用とされるパッチテストの普及が十分ではないこと、それに伴い、金属アレルギーの診療に必要な多科連携が希薄になっていることが挙げられる。本研究は、専門性の高い各診療科医師や管理栄養士による研究班を構築し、まず、金属アレルギー診療で患者自身、そして医療施設での問題点を抽出し、さらに、それらの解決に向けて、診断法の確立、国内外の金属アレルギーの情報を収集し整理し、金属アレルギーの診療・管理法を構築すること目的としている。そして、今年度は、潜在的にかなりの数に上ることが予想される金属アレルギーの実態を明らかにすることを目的に、一般国民を対象とした金属アレルギーの実態調査を実施し、解析した。

インターネットサイト「マクロミル」を利用し、まず約7万人の国民に対し事前調査（スクリーニング調査）として、自身の金属アレルギーの有無についての回答を得たのち、金属アレルギーがあると回答した研究対象者に対し、金属アレルギーに関するアンケートを同様の方法で配付・実施し調査した。

（調査項目：金属アレルギーの有無、金属アレルギーに関する知見、誘発された症状、症状が誘発される金属製品、ピアスによる症状の有無、日常生活における金属アレルギーによる困難、医療機関受診・検査の有無およびその結果、金属アレルギー診療についての要望 等）

約7万名にスクリーニング調査にて「金属アレルギーの自覚がある」とした回答者のうち2,060名（男性603名：15歳～83歳（平均52.1歳）、女性1,457名：16歳～90歳（平均52.2歳））から本調査の回答を得た。金属アレルギー自覚年代は10～20歳代が56.3%を占めた。症状は、金属製アクセサリなどによる皮膚症状は1,812件（88.0%）、歯科金属による口腔内症状102件（5.0%）、歯科金属以外の医療材料42件（2.0%）、全身型金属アレルギー312件（15.1%）、食品中の金属による皮膚炎120件（5.8%）であった（複数回答可）。「金属アレルギーのための医療機関への受診の有無」では、488名（23.7%）が「ある」と回答し、皮膚科456件（93.4%）、歯科47件（9.6%）であった。検査は333名（68.2%）が受けており、パッチテストではニッケルが104例（パッチテストを受けた人のうち41.3%）と他の金属に比べ突出して陽性者が多かった。一方、検査を受けなかった理由（複数回答可）では、「検査を勧められなかった」93件（60.0%）、「検査なしで診断された」73件（47.1%）が多く、さらに「受診すべき医療機関がわからなかった」702件（34.1%）、「医療機関を受診したが検査を受けられなかった」84件（4.1%）との回答があり、「正しい情報が得られるwebサイト」965件（46.8%）をはじめ、医療機関への受診のしやすさや各科の連携などの要望があることが明らかとなった。

金属アレルギーを自覚している者は、女性が1,457名（70.7%）と多く、最も回答が多かった年代は40歳代で493名（23.9%）であった。金属アレルギーを自覚した年代は10歳代24.6%、20歳代31.7%と比較的若年から金属アレルギーを自覚していることが明らかとなり、自覚していた症状もネックレスやピアスによるアクセサリ等の金属製品が多くを占めていたことから、金属製装飾品が金属アレルギー発症に大きく関与していることが推察された。一方、医療機関への受診状況は23.7%が医療機関を受診しており、その多くが皮膚科を受診し、パッチテストなどを受けていた。しかし、「結果を覚えていない」との回答が多く、検査は受けたものの診療や生活に活かされていない可能性が示唆された。また、「受診すべき医療機関がわからなかった」、「診断がつかなかった」とした回答が多く、さらに、「金属アレルギーについての情報が得られるwebサイト」や「金属アレルギー診療科間の連携」への期待が大きいことが示された。

40歳代女性を筆頭に幅広い年齢、男女が金属アレルギーに苦慮していることが明らかとなった。検査は実施されているが適切に活かされているとは言えず、診療アルゴリズム構築に向けた金属アレルギー検査方法（パッチテスト）、多科連携、全身型金属アレルギーの管理、金属アレルギーを診断可能医療機関の提示等、本疾患において取り組むべき課題が明らかとなった。

【研究分担者】

加藤 則人	京都府立医科大学 大学院 医学研究科 教授
伊莉 裕二	東海大学 医学部 循環器内科 教授
江草 宏	東北大学 大学院 歯科研究科 教授
二木 康夫	慶應義塾大学 医学部 整形外科学教室 准教授
鈴木 加余子	藤田医科大学 医学部 総合アレルギー科 准教授

A. 研究目的

金属アレルギーは、金属が皮膚や粘膜に接触し、溶出した金属イオンが体内に取り込まれることで起きる遅延型（IV型）アレルギーである。臨床型には、金属が接触した皮膚局所に生じるアレルギー性接触皮膚炎と、食品や歯科金属に含まれた微量金属が体内に吸収されて全身の皮膚に汗疱状湿疹、多形慢性痒疹、掌蹠膿疱症などを生じる全身型金属アレルギーがある。小児から成人に幅広く発症するが、本邦において金属アレルギーに特化した疫学調査報告はない。申請者らが1994年以降実施している『接触皮膚炎の主要アレルゲンに関する疫学調査（パッチテスト：PTの陽性率）（URL：https://www.jscia.org/docs/useful_info/JSA_ResearchData.pdf）』では、硫酸ニッケル（Ni）、金チオ硫酸ナトリウム（Au）などの金属の陽性率が高く、潜在的に金属アレルギーに苦慮する国民が多いことが推測される。

金属は装飾品等の生活用品のみでなく、歯科、整形外科、循環器内科、脳神経外科等の医療材料にも多く使用されており、金属アレルギー患者に対しては複数の診療科で連携した診療及び診断と生活指導が必要である。

一方、金属アレルギー診療の問題点として、患者が受診しても各診療科で適切な対応がなされず漫然と観察されている状況がある。その要因として、金属アレルギーの診断に最も有用である *in vivo* 検査の PT で使用する検査試薬が国内で入手しづらい点が挙げられる。PT 用検査試薬は医薬品に分類され、現在保険収載されている試薬は 21 品目（佐藤製薬、鳥居薬品）のみであり、チタン化合物を含むその他の金属試薬は国内では販売されていない。十分な検査が施行できないことから金属アレルギーの診療に必要な多科連携が希薄になっていることが推測される。本研究は、専門性の高い各診療科

医師や管理栄養士による研究班を構築し、まず、金属アレルギー診療で患者自身、そして医療施設での問題点を抽出する。さらに、それらの解決に向けて、診断法の確立、国内外の金属アレルギーの情報を収集し整理し、金属アレルギーの診療・管理法を構築することを目的としている。

今年度は、潜在的にかなりの数に上ることが予想される金属アレルギーの実態を明らかにすることを目的に、一般国民を対象とした金属アレルギーの実態調査を実施し、解析した。

B. 研究方法

2022 年度は、一般国民へ向けた金属アレルギーに関する全国実態アンケート調査を行った。

- 対象者
インターネット調査会社・株式会社マクロミルの保有する未成年および成人国内モニター
- 調査方法
インターネットサイト「マクロミル」を利用し、まず約7万人の国民に対し事前調査（スクリーニング調査）として、自身の金属アレルギーの有無についての回答を得る。後日、金属アレルギーがあると回答した研究対象者に対し、金属アレルギーに関するアンケートを同様の方法で配付・実施し調査する。
- 調査項目
金属アレルギーの有無、金属アレルギーに関する知見、誘発された症状、症状が誘発される金属製品、ピアスによる症状の有無、日常生活における金属アレルギーによる困難、医療機関受診・検査の有無およびその結果、金属アレルギー診療についての要望 等

（倫理面への配慮）

本研究調査を実施するにあたり、藤田医科大学医学研究倫理審査委員会に承認を得たうえで実施した（藤田医科大学医学研究倫理審査委員会 承認番号：HM22-443）。

研究対象者においては、事前調査時に研究に関する情報（研究の概要・目的、研究機関の名称並びに研究機関の長及び研究責任者の氏名、利益相反について、研究対象者及びその関係者からの相談窓口等）を掲載し、研究協力についての可否を問う設問に回答をすることで研究参加への同意を得ている。

C. 研究結果

約 7 万名にスクリーニング調査にて金属アレルギーの自覚があったとした回答者のうち 2,060 名（男性 603 名：15 歳～83 歳（平均 52.1 歳）、女性 1,457 名：16 歳～90 歳（平均 52.2 歳））に本調査の回答を得ることができた。回答者の年代は、10 歳代 45 名（2.2%）、20 歳代 108 名（5.3%）、30 歳代 293 名（14.2%）、40 歳代 493 名（23.9%）、50 歳代 391 名（19.0%）、60 歳以上 730 名（35.4%）の割合であった（図 1、2）。回答者の居住地は、北海道 95 名（4.6%）、東北地方 134 名（6.5%）、東地方 643 名（31.2%）、中部地方 380

名 (18.4%)、近畿地方 378 名 (18.3%)、中国地方 128 名 (6.2%)、四国地方 61 名 (3.0%)、九州地方 241 名 (11.7%) の割合であった。

金属によるアレルギー症状を初めて経験した年

代は 10 歳代、20 歳代が合わせて 56.3%、30 歳代 13.5%、40 歳代 11.8%、50 歳代 7.0%、60 歳代以上 8.9% だった (図 3)。

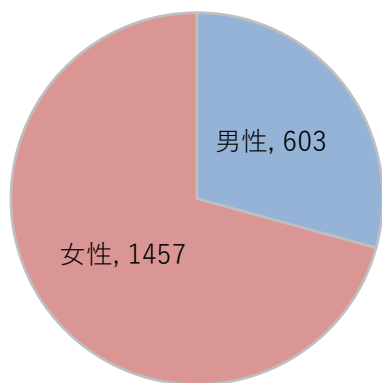


図 1 回答者 男女比

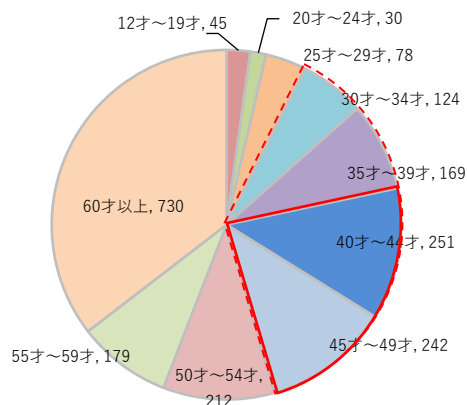


図 2 回答者 年齢比

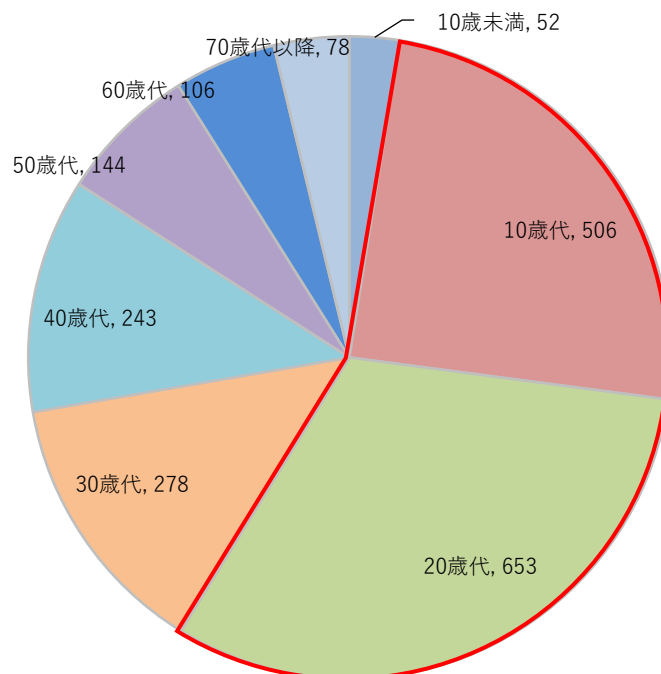
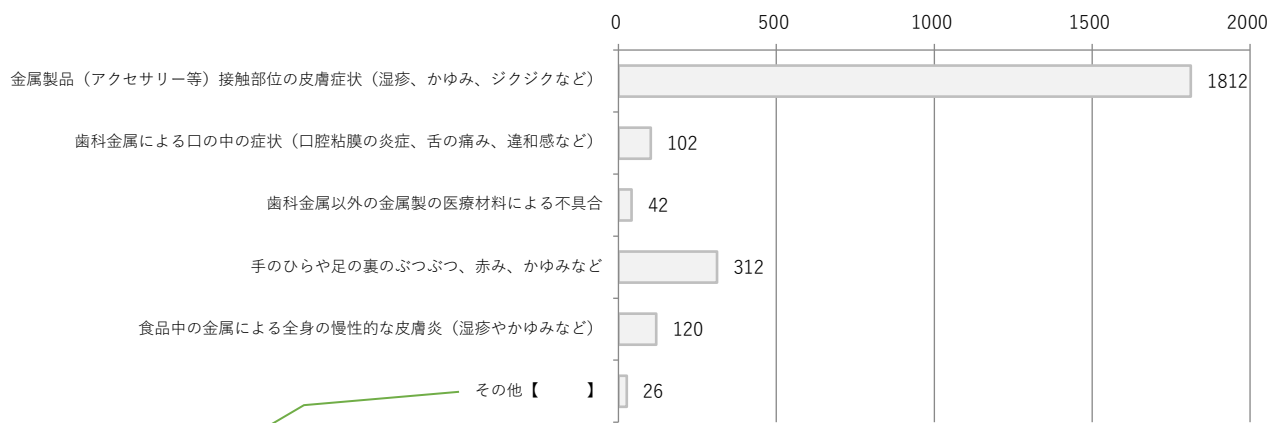


図 3 Q1. 「金属によるアレルギー症状をはじめて経験した何歳代の頃ですか？」

誘発された症状は、アクセサリーなどによる金属製品接触による皮膚症状は 1,812 件 (88.0%)、歯科金属による口腔内症状 102 件 (5.0%)、歯科金属以外の医療材料 42 件 (2.0%)、全身型金属アレルギーが疑われる手足の皮疹 312 件 (15.1%)、金属アレルギーが原因と推察される食品中の金属による皮膚炎 120 件 (5.8%) であった (図 4)。金属製品の接触部位に症状を起こした製品は、ピアス 743 件 (41.0%)、イヤリング 239 件 (13.2%)、ネックレス 954 件 (52.62%)、指輪 454 件 (25.1%)、時計の文字盤 201 件 (11.1%)、時計のベルト 511 件 (28.2%)、ベルトのバックル 190 件 (10.5%) であった (複数回答可)。なお、ピアスホールを初め

て開けた年代は 10 歳代が 59.4% と最も多く、ピアスホールに皮膚症状が現れた年代は 10 歳代 40.9%、20 歳代 37.4% であった。

歯科金属による口腔内症状については、その原因となった歯科金属は被せ物・充填物 88 件 (86.3%)、入れ歯、歯科矯正装置、インプラントの順であった (図 5)。また、歯科以外の金属製医療用材料で不具合を訴えた症例 (42 件) の原因は、整形外科の人工関節や金属プレート 32 件 (76.2%)、循環器・心血管外科のステントやペースメーカー 13 件 (31.0%)、脳神経外科のクリッピング 9 件 (21.4%) であった (図 6)。



- ・ ネックレスシルバーのみ、18Kと18Pは大丈夫です
- ・ 動物
- ・ 腕時計の裏側、金属部分に汗が溜り痒みが出て皮膚が赤く成ります。時計を外して乾燥すると痒みは止まります
- ・ 気持ち悪さ
- ・ 腕時計の金属部分が汗で反応した。
- ・ くしゃみ等
- ・ 金属の味がする
- ・ 腕時計の金属ベルト
- ・ 制汗スプレーなど
- ・ 私の場合はいろんな症状はありません、ただ、ヘアピンが歯に当たると体がゾクゾクして体のどこかに当ててひらなれないといけなとです義歯を入れた時そのけいこうがありました、それはなくなりました
- ・ 歯科金属による足の満船的な皮膚炎
- ・ まぶたが腫れた
- ・ 縫い針、鉄棒 湿疹、かゆみ
- ・ 金属の粉
- ・ 食品中の金属によるめまい、吐き気、下痢
- ・ 起こってない
- ・ 円形脱毛症
- ・ 歯科金属を取り外した時に背中や手足や手のひらに大量の痒疹ができた。中から毛虫に刺されているような痒さでよく眠れない状態が続いた。
- ・ プラチナを含む美容液や美顔器で皮膚に炎症
- ・ ビアスの腫れ
- ・ 腕時計
- ・ 歯科金属による皮膚の炎症かゆみ
- ・ 腕時計で手首に湿疹が出た
- ・ 指の赤み、かゆみ
- ・ 唇が腫れた
- ・ なし

図4 Q2.「金属製品によりあなたにはどのような症状が起きましたか？（複数回答可）」

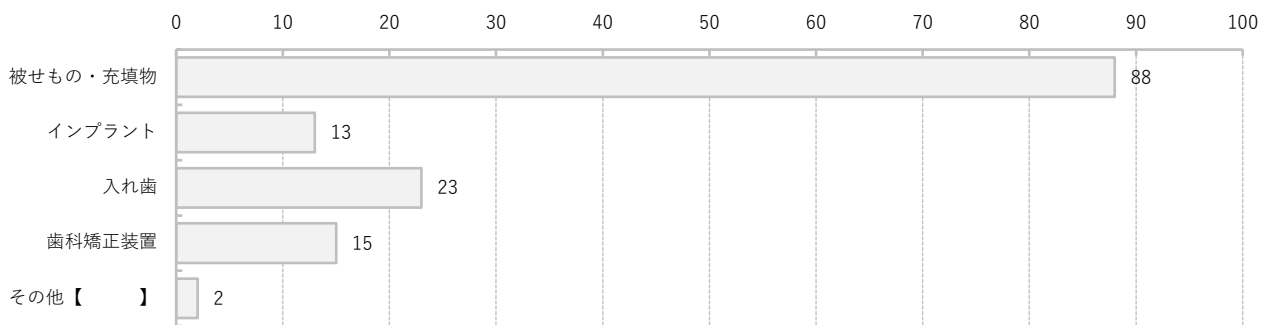


図5 Q6.「前問で【歯科金属による口の中の症状（口腔粘膜の炎症、舌の痛み、違和感など）】が起ったとお答えした方にお伺いします。症状の原因となった歯科金属を教えてください（複数回答可）。」

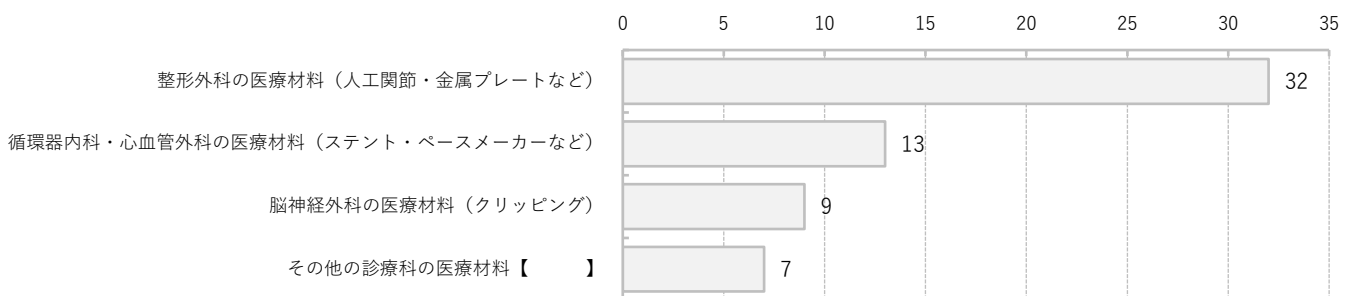


図6 Q7.「前問で【歯科金属以外の金属製の医療材料による不具合】が起ったとお答えした方にお伺いします。不具合の原因となった医療材料について教えてください（複数回答可）。」

日常生活で困っていることとしては「装飾品が使用できないこと」(1,204件、58.4%)、「歯科治療」(121件、5.9%)、「金属を含む食材への配慮」(63件、3.1%)であった。

一方、「金属アレルギーのための医療機関への受診の有無」は、488名(23.7%)が「ある」と回答し、皮膚科456件(93.4%)、歯科47件(9.6%)、内科46件(9.4%)であった。そのうち、「金属アレルギーの検査を受けた」と回答した人は333名(68.2%)で、検査内容(複数回答可)としてはパッチテスト252件(51.6%)、血液検査166件(34.0%)であった。パッチテストの結果ではニッケルが104例(パッチテストを受けた人のうち41.3%)と他の金属に比べ突出して陽性者が多い結果であった。血液検査でも同様であった。「結果を覚えていない、わからない」はパッチテスト72件(28.6%)、血液検査57件(34.3%)にのぼった。一方、検査を受けなかった理由(複数回答可)は、「検査を勧められなかった」93件(60.0%)、「検査を受けずに診断された」73件(47.1%)であった(図7)。また、「金属アレルギーの検査を受けた」と思ってから医療機関を受診し診断されるまでにかかった時間」としては、1か月未満61件(32.1%)、1～3か月55件(28.9%)、3～6か月34件(17.9%)で、時間がかかった理由は、「受診すべき医療機関がわからなかった」67件(35.3%)、「受診したが診断がつかず、複数の医療機関を受診した」46件(24.2%)、「受診した医療機関で検査までに時間がかかった」25件(13.2%)であった。

金属アレルギーと診断された後、日常生活で変化はあったか(複数回答可)の間に対しては、「金属製品による皮膚炎がなくなった」116件(61.1%)、「安心して医療機関を受診できるようになった」55件(28.9%)、「歯科やその他の診療科での治療が受けられた」42件(22.1%)、「食生活で気を付けるべき点がわかった」38件(20.0%)であった(図8)。

金属アレルギーと診断された後、日常生活で変化はあったか(複数回答可)の間に対しては、「金属製品による皮膚炎がなくなった」116件(61.1%)、「安心して医療機関を受診できるようになった」55件(28.9%)、「歯科やその他の診療科での治療が受けられた」42件(22.1%)、「食生活で気を付けるべき点がわかった」38件(20.0%)であった(図8)。

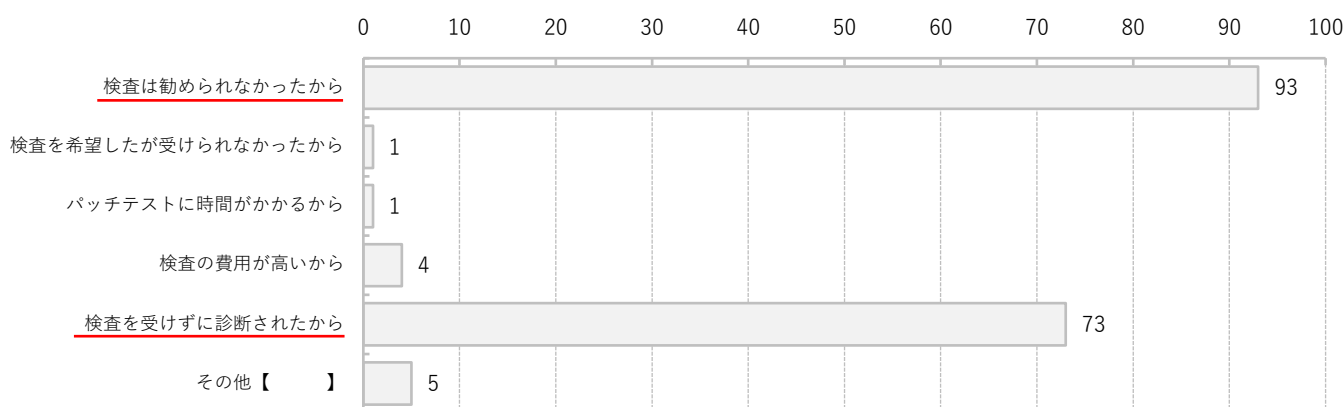


図7 Q14.「前問で【検査は受けていない】とお答えした方にお伺いします。検査を受けなかった理由を教えてください(複数回答可)。」

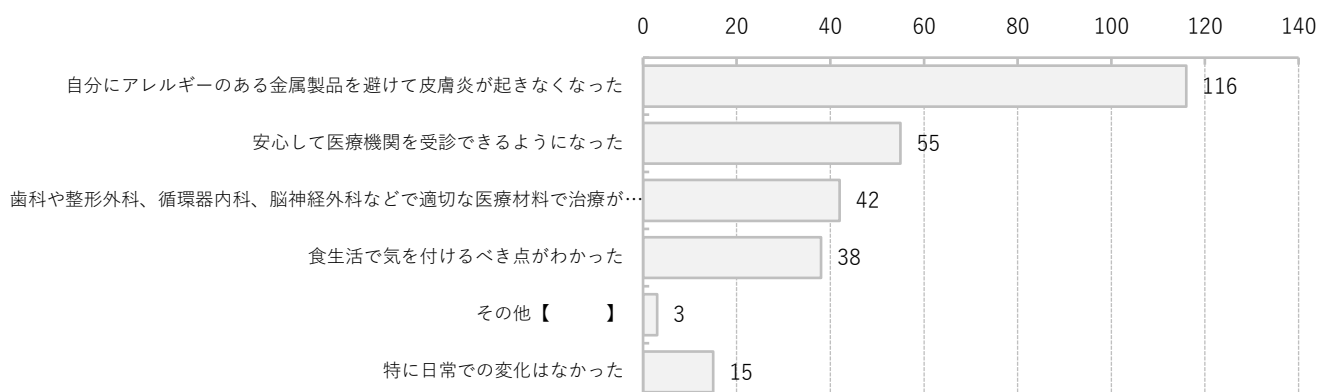
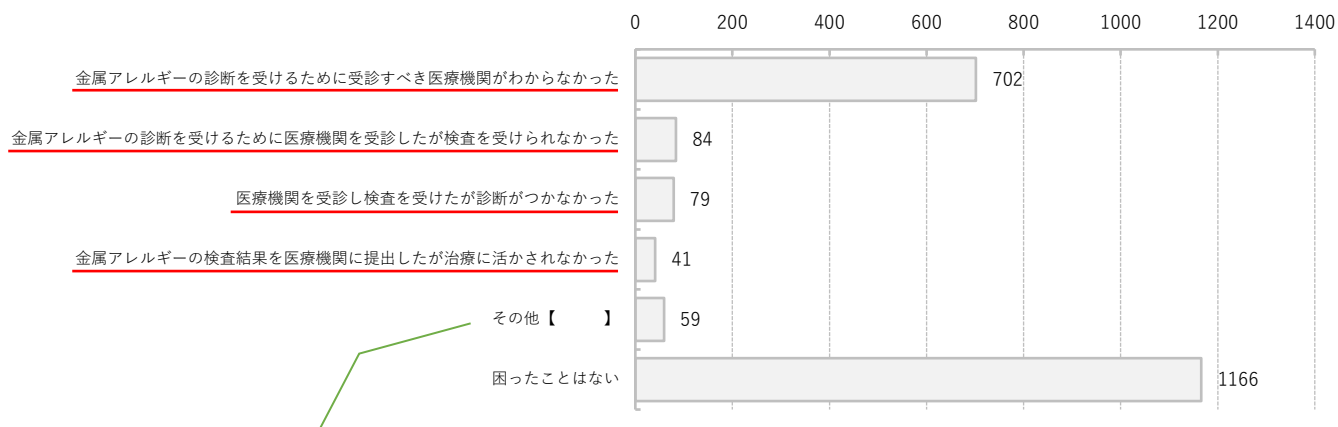


図8 Q17.「金属アレルギーと診断を受けた後、日常生活での変化はありましたか?(複数回答可)。」

また、金属アレルギー診療で困った点等においては（複数回答可）、「金属アレルギーの診断を受けるために受診すべき医療機関がわからなかった」702件（34.1%）、「金属アレルギーの診療を受けるために医療機関を受診したが検査を受けられなかった」84件（4.1%）、「医療機関を受診し検査を受けたが診断がつかなかった」79件（3.8%）、「金属アレルギーの検査結果を医療機関に提出したが治療に活かされなかった」41件（2.0%）であった（図9）。そして、金属アレルギー診療において今後、期待

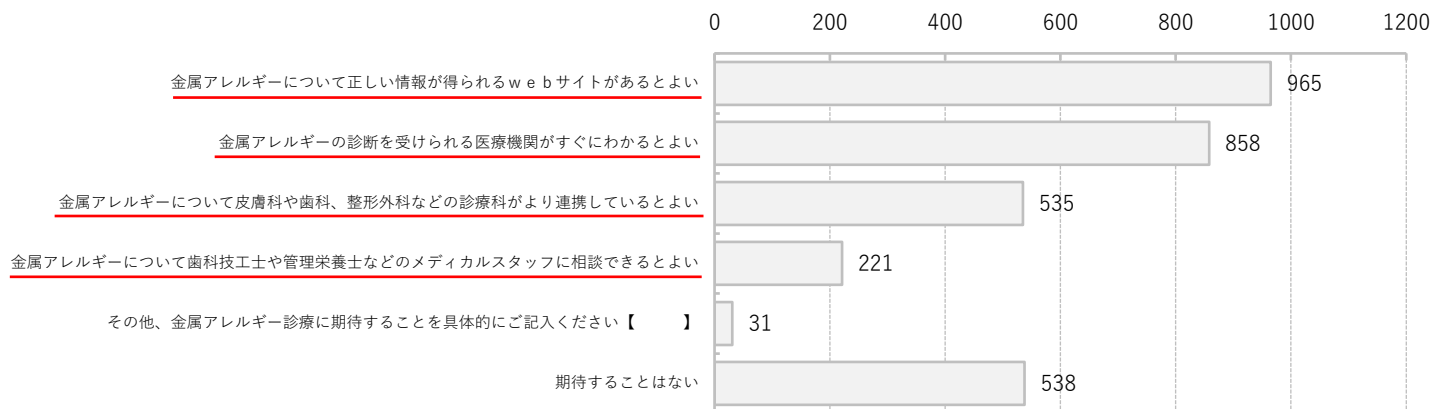
すること（複数回答可）については、「金属アレルギーについて正しい情報が得られるwebサイトがあるとよい」965件（46.8%）、「金属アレルギーの診断を受けられる医療機関がすぐにわかるとよい」858件（41.7%）、「金属アレルギーについて皮膚科や歯科、整形外科などの診療科が連携しているとよい」535件（26.0%）、「金属アレルギーについて歯科衛生士や管理栄養士などのメディカルスタッフに相談できるとよい」221件（10.7%）であった（図10）。



- ・ 時間がなかった
- ・ 何度も行かなければいけないので働いていると検査を受けにくい
- ・ 金属アレルギーを調べる為に金属を身体に貼るからお風呂に入れないし、金属で赤く腫れるのが怖い
- ・ 検査の料金が気になった
- ・ 今後受けたい
- ・ 調べた検査方法が1週間ほどシャワーも不可と見て、受診を躊躇してしまった
- ・ はっきりしなかった
- ・ 内科で金属アレルギーの種類を細かく調べたい
- ・ パッチテストを実施していなかったり検査が大変だったりする。即時型アレルギーのように簡単にわかれば食べ物にも注意できるし本当に助かる。
- ・ 内科で金属アレルギーの種類を細かく調べたい
- ・ 金属アレルギーの診療をうけられること自体を知らなかった
- ・ お金がかかりそう
- ・ 金属以外のアレルギーもある為
- ・ 診断を受けたところでアレルギーが無くなる訳では無いので、受診する必要があるか微妙なところではある
- ・ お風呂に入れなかった
- ・ 病院が混む
- ・ 待ち時間が懸念されること
- ・ 歯科治療で、材料に対して不安があった
- ・ ピアスホールを閉じたくなかったが、受信すると患部の治療を優先されそうで受診できなかった。
- ・ 受診しても解決に繋がるのかわからなかったから
- ・ 病院で治療を受けた。
- ・ 治療で充填されていた金属を「金」に替えることで
- ・ 銀歯を非金属に保険で変えるために皮膚科での診断が必要になるが、その治療費を用意できなかった
- ・ 無知な医者に見てもらっても意味ないかと…
- ・ 皮膚科医が金属アレルギーを知らなかった
- ・ 審美感からインレーをやり他の材料に替えたら治った
- ・ 目視のみでかゆみ止め処方されたのみで終わった。

- ・ 診察へ行く時間がなかった。
- ・ そんなにひどくないので行きにくい
- ・ アレルギーが発覚すると職業の選択に影響しそう
- ・ 受診していない
- ・ それ以来ネックレスやイヤリングを使用しない。
- ・ アクセサリーを付けなければいいことなので特に受診しようとは思わなかった
- ・ 腕時計を外し乾燥させれば良くなるので放置している
- ・ あまり深刻にならなかったから
- ・ アクセサリーを着けないとどうも無い
- ・ ネckレスせず過ごせているので受診考えてない
- ・ 痛い、かゆい症状がでた時が、不快な時が不満。
- ・ 肌に密着するものは出来るだけ金属以外の素材を選ぶようになった。
- ・ ピアス使用の時だけです、全てのピアスと言う訳ではないので受診迄にはいらなかった。
- ・ ピアスのみなので使用しなければ大丈夫やから
- ・ 自己判断
- ・ 金属アレルギー自体知らなかった。
- ・ 指輪をすると ぶつぶつができて かゆくなったので つけることをやめた それで問題は起こらなかったの で 病院へは いかなかった
- ・ 体質として諦めていた
- ・ 経験がないのでわからない
- ・ 時計をつけるのをやめたら治まったので受診しなかった
- ・ 診断を受けようとしたことがない。
- ・ イヤリングをつけなければアレルギー症状は出ない
- ・ 受診するほどの症状ではなかった
- ・ 覚えてない
- ・ アクセサリーを付けなかったら困ることはない
- ・ スマートウォッチのベルトを皮ベルトに変えたら治った
- ・ 18金にしてならなくなった。
- ・ 今は症状がない
- ・ それ以来腕時計をしていない
- ・ 医療機関に行っていない
- ・ おみやげにもらったネックレスを使わなくなったらすぐに治った

図9 Q19.「金属アレルギーの診療に関して困ったことや不満なことを教えてください(複数回答可)。」



- ・ 金属アレルギー反応は生涯、続くのだろうか。体質改善はできるのか。遺伝するのだろうか。
- ・ 金属じゃない注射針が欲しい、あとメスなんかの手術用品も
- ・ マイナンバーに情報が細かく診療科が書いてくれるとありがたい
- ・ 金属アレルギーを治せるなら治したい
- ・ 最初に金属アレルギーだとはわからなかった
- ・ 非金属の歯科治療の保険適応
- ・ 改善する方法があったら知りたい
- ・ 歯のブリッジでは アレルギーはおこらない金属アレルギーの治療があると気が付かなかった
- ・ 皮膚科は自分の検診外といった
- ・ 治療が簡単になると良い
- ・ 今後どうしたら良いか？治るのか？気休めの薬貰うだけは解決にならない。
- ・ 治ると良い。
- ・ オンライン診療で身近に受診できること
- ・ 医者など医療機関に携わる人は、進化している事など、新たに学ぶことをしてほしい
- ・ 特に歯科全部保険対応して欲しい
- ・ 1日で検査できる
- ・ 簡単にアレルギーが調べられると良い
- ・ 歯医者で検査できるといいかと思う
- ・ 検査キットのような自宅でできるものがあるとよい
- ・ パッチテストより簡便なテストがあるとうれしい
- ・ 夏場にも確実にわかる検査があればいいと思う。
- ・ 費用はどのくらいかかるかもわかれば良いとおもいました
- ・ 検査の料金を明確にしてほしい
- ・ 検査費用を安く
- ・ チタンでも駄目だったので、金属感を保ちながらアレルギー症状の出ない素材を紹介してほしい。
- ・ 金属アレルギーでも使用できる化粧品の一覧
- ・ 製品の材質などわからずに購入してしまうので、商品にも注意書きしてほしい
- ・ 商品を買う時に、その商品に金属アレルギーが起こるかも知れないと、分かりやすく注意書きがあると良い

図 10 Q20.「金属アレルギー診療において今後、期待することがあれば教えてください（複数回答可）。」

D. 考察

本研究では、一般国民における金属アレルギーの実態や国民が感じている金属アレルギー診療の実態、さらに期待すること等についての調査として、約7万人のスクリーニング調査を経て、回答者2,060名からの回答を得た。

金属アレルギーを自覚している者は、女性が1457名（70.7%）と多く、最も回答が多かった年代は40歳代で493名（23.9%）であった。金属アレルギーを自覚した年代は10歳代24.6%、20歳代31.7%と比較的若年から金属アレルギーを自覚していることが明らかとなり、自覚していた症状もネックレスやピアスによるアクセサリ等の金属製品が多くを占めていたことから、金属製装飾品が金属アレルギー発症に大きく関与していることが推察された。一方、医療機関への受診状況は23.7%が医療機関を受診しており、その多くが皮膚科を受診し、パッチテストや血液検査を受けていた。しかしながら、「結果を覚えていない、わからない」との回答者が多く、検査は受けたものの診療や生活に活かされていない可能性が示唆された。また、今回の調査から、金属アレルギーのために医療機関を受診する際、「受診すべき医療機関がわからなかった」、「診断がつかなかった」とした回答が多く、さらに、「金属アレルギーについての情報が得られるwebサイト」や「金属アレルギー診療科間の連携」

への期待が大きいことが示された。

E. 結論

40歳代女性を筆頭に幅広い年齢、男女が金属アレルギーに苦慮していることが明らかとなった。検査は実施されているが適切に活かされているとは言えず、診療アルゴリズム構築に向けた金属アレルギー検査方法（パッチテスト）、多科連携、全身型金属アレルギーの管理、金属アレルギーを診断可能医療機関の提示等、本疾患において取り組むべき課題が明らかとなった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

Q1

金属製のアクセサリーや日用品、歯科金属、人工関節等の医療材料でアレルギー症状が起こったことはありますか？

単一回答 必須回答

▲ とじる

- ① 金属によるアレルギー症状を経験したことがある
- ② 金属によるアレルギー症状を経験したことはない

Q2

金属アレルギーにより起こる症状で知っているものを選んでください（複数回答可）。

複数回答 必須回答

▲ とじる

- ① 金属製品（アクセサリー等）接触部位の皮膚症状（湿疹、かゆみ、ジクジクなど）
- ② 歯科金属による口の中の症状（口腔粘膜の炎症、舌の痛み、違和感など）
- ③ 歯科金属以外の金属製の医療材料による不具合（人口関節、ペースメーカーなど）
- ④ 手のひらや足の裏のぶつぶつ、赤み、かゆみなど
- ⑤ 食品中の金属による全身の慢性的な皮膚炎（湿疹、かゆみなど）
- ⑥ その他
- ⑦ 知っているものはない

Q3

ピアスホール（ピアスを通すための穴）を開けたことはありますか？また、ピアスホールになにか症状（ジクジクするなど）が現れたことはありますか？

単一回答 必須回答

▲ とじる

【開けたことはない】

- ① ピアスホールを開けたことはない

【開けたことがある】

- ② ピアスホールを開けたことがあるが、症状が現れたことは1度もない
- ③ ピアスホールを開けたことがあり、症状が現れたことが1度でもある

アンケートは以上で終わりです。
ご協力ありがとうございました。
送信ボタンを押してください。

送 信

Q1 100%
金属によるアレルギー症状をはじめて経験した何歳の頃ですか？
① 単一回答 ★ 必須回答

- ① 10歳未満
- ② 10歳代
- ③ 20歳代
- ④ 30歳代
- ⑤ 40歳代
- ⑥ 50歳代
- ⑦ 60歳代
- ⑧ 70歳代以降

Q2
金属製品によりあなたにはどのような症状が起こりましたか？（複数回答可）
▼ 複数回答 ★ 必須回答

- ① 金属製品（アクセサリー等）接触部位の皮膚症状（湿疹、かゆみ、ジクジクなど）
- ② 歯科金属による口の中の症状（口腔粘膜の炎症、舌の痛み、違和感など）
- ③ 歯科金属以外の金属製の医療材料による不具合
- ④ 手のひらや足の裏のぶつぶつ、赤み、かゆみなど
- ⑤ 食品中の金属による全身の慢性的な皮膚炎（湿疹やかゆみなど）
- ⑥ その他

Q3
前問で【金属製品（アクセサリー等）接触部位の皮膚症状（湿疹、かゆみ、ジクジクなど）が起こったとお答えした方にお伺いします。症状の原因となった金属製品を教えてください（複数回答可）。
▼ 複数回答 ★ 必須回答 ▲ とじる

- ① ピアス
- ② イヤリング
- ③ ネックレス
- ④ 指輪
- ⑤ 時計の文字盤
- ⑥ 時計のベルト
- ⑦ ベルトのバックル
- ⑧ その他

Q4
ピアスで症状が起きたとお答えした方にお伺いします。ピアスホールをはじめて開けたのは何歳の頃ですか？
① 単一回答 ★ 必須回答 ▲ とじる

- ① 10歳未満
- ② 10歳代
- ③ 20歳代
- ④ 30歳代
- ⑤ 40歳代
- ⑥ 50歳代
- ⑦ 60歳代
- ⑧ 70歳代以降

Q5

ピアスホールに症状（ジクジクするなど）が現れたのは何歳代の頃でしたか？

単一回答 必須回答

- ① 10歳未満
- ② 10歳代
- ③ 20歳代
- ④ 30歳代
- ⑤ 40歳代
- ⑥ 50歳代
- ⑦ 60歳代
- ⑧ 70歳代以降

Q6

前問で【歯科金属による口の中の症状（口腔粘膜の炎症、舌の痛み、違和感など）】が起こったとお答えした方にお伺いします。症状の原因となった歯科金属を教えてください（複数回答可）。

複数回答 必須回答

▲ とじる

- 1 被せもの・充填物
- 2 インプラント
- 3 入れ歯
- 4 歯科矯正装置
- 5 その他

Q7

前問で【歯科金属以外の金属製の医療材料による不具合】が起こったとお答えした方にお伺いします。不具合の原因となった医療材料について教えてください（複数回答可）。

複数回答 必須回答

▲ とじる

- 1 整形外科の医療材料（人工関節・金属プレートなど）
- 2 循環器内科・心血管外科の医療材料（ステント・ペースメーカーなど）
- 3 脳神経外科の医療材料（クリッピング）
- 4 その他の診療科の医療材料

Q8

日常生活において、これまでに金属アレルギーのため困ったことはありますか？（複数回答可）

複数回答 必須回答

▲ とじる

- 1 装飾品（アクセサリーなど）が使用できない時
- 2 歯科で治療を受ける時に歯科金属（被せものやインプラント、入れ歯など）を入れることになった時
- 3 整形外科で人工関節や金属プレートなどによる治療を受けることになった時
- 4 循環器内科でカテーテル術やペースメーカーの植え込み術を受けることになった時
- 5 脳神経外科の手術を受けることになった時
- 6 金属を含む食材（チョコレート、貝類など）を避けなければならない時
- 7 その他
- 8 困ったことはない

Q9
金属アレルギーの診断のために医療機関を受診したことはありますか？

単一回答 必須回答

① ある

② ない

Q10
医療機関を受診したことがあると答えた方にお伺いします。受診した診療科を教えてください。(複数回答可)

複数回答 必須回答 ▲ とじる

1 皮膚科

2 歯科

3 内科

4 小児科

5 その他診療科 (必須入力)

Q11
医療機関を受診した際、金属アレルギーの検査は受けましたか？(複数回答可)

複数回答 必須回答

1 パッチテストを受けた

2 血液検査を受けた

3 その他：検査名と結果をご記入ください。
(必須入力)

4 検査は受けていない

Q12
前問で【パッチテストを受けた】とお答えした方にお伺いします。結果について教えてください(複数回答可)。

複数回答 必須回答 ▲ とじる

1 すべて陰性

2 「ニッケル」陽性

3 「金」陽性

4 「コバルト」陽性

5 「クロム」陽性

6 「パラジウム」陽性

7 「水銀」陽性

8 「チタン」陽性

9 その他 (必須入力)

10 覚えていない、わからない

Q13

前問で【血液検査を受けた】とお答えした方にお伺いします。結果について教えてください（複数回答可）。

▼ 複数回答 ★ 必須回答

▲ とじる

- 1 すべて陰性
- 2 「ニッケル」陽性
- 3 「金」陽性
- 4 「コバルト」陽性
- 5 「クロム」陽性
- 6 「パラジウム」陽性
- 7 「水銀」陽性
- 8 「チタン」陽性
- 9 その他 (必須入力)
- 10 覚えていない、わからない

Q14

前問で【検査は受けていない】とお答えした方にお伺いします。検査を受けなかった理由を教えてください（複数回答可）。

▼ 複数回答 ★ 必須回答

▲ とじる

- 1 検査は勧められなかったから
- 2 検査を希望したが受けられなかったから
- 3 パッチテストに時間がかかるから
- 4 検査の費用が高いから
- 5 検査を受けずに診断されたから
- 6 その他 (必須入力)

Q15

金属アレルギーの検査を受けたいと思ってから、医療機関を受診して診断されるまでにどのくらいの期間がかかりましたか？

◎ 単一回答 ★ 必須回答

↓ とじる

- 1 1か月未満
- 2 1～3か月未満
- 3 3～6か月未満
- 4 6か月から1年未満
- 5 1年～5年未満
- 6 5年以上

Q16

診断までに時間がかかったと感じていますか？またその場合なぜ時間がかかってしまったと考えますか？（複数回答可）

▼ 複数回答 ★ 必須回答

▲ とじる

- 1 受診すべき医療機関がわからなかったから
- 2 受診したが診断がつかず、複数の医療機関を受診したから
- 3 受診した医療機関で検査の実施までに時間がかかったから
- 4 その他 (必須入力)
- 5 時間がかかったとは感じていない

Q17

金属アレルギーと診断を受けた後、日常生活での変化はありましたか？(複数回答可)。

▼ 複数回答 ★ 必須回答

▲ とじる

- 1 自分にアレルギーのある金属製品を避けて皮膚炎が起きなくなった
- 2 安心して医療機関を受診できるようになった
- 3 歯科や整形外科、循環器内科、脳神経外科などで適切な医療材料で治療が受けられた
- 4 食生活で気を付けるべき点がわかった
- 5 その他 (必須入力)
- 6 特に日常での変化はなかった

Q18

可能であれば金属アレルギーの検査を受けたいですか？

◎ 単一回答 ★ 必須回答

- 1 受けたい
- 2 受けたくない

Q19

金属アレルギーの診療に関して困ったことや不満なことを教えてください(複数回答可)。

▼ 複数回答 ★ 必須回答

▲ とじる

- 1 金属アレルギーの診断を受けるために受診すべき医療機関がわからなかった
- 2 金属アレルギーの診断を受けるために医療機関を受診したが検査を受けられなかった
- 3 医療機関を受診し検査を受けたが診断がつかなかった
- 4 金属アレルギーの検査結果を医療機関に提出したが治療に活かされなかった
- 5 その他 (必須入力)
- 6 困ったことはない

Q20

金属アレルギー診療において今後、期待することがあれば教えてください(複数回答可)。

▼ 複数回答 ★ 必須回答

▲ とじる

- 1 金属アレルギーについて正しい情報が得られるwebサイトがあるとよい
- 2 金属アレルギーの診断を受けられる医療機関がすぐにわかるとよい
- 3 金属アレルギーについて皮膚科や歯科、整形外科などの診療科がより連携しているとよい
- 4 金属アレルギーについて歯科技工士や管理栄養士などのメディカルスタッフに相談できるとよい
- 5 その他、金属アレルギー診療に期待することを具体的にご記入ください
(必須入力)
- 6 期待することはない

アンケートは以上で終わりです。
ご協力ありがとうございました。
送信ボタンを押してください。